

中味は余と同じと云ふに云はざるを以て云ふなり二十四日
八萬紙を印刷して、全國の友誼團體に依頼す。同日
思想團體、全國の(遠くは台湾、朝鮮地方まで)各新聞社、旅
館、新報局等に配布した。此の宣傳が功を達せしと見
て、會社は日誌を提起した。日誌は、日誌會で日誌
を更に募集して貰へることを喜んで居る。

(六) 家族製會

既に御免者。通り、團員は全部籍地しておらぬが、時折會日
社、抑府運動。情勢に従って帰宅せしめらるるが、また
戦口も畏、所る。不慮ある。並の色々の流言や會社の
謠言等もあつて、家族製會の團員以上の苦しみである。こ
れを解決する為め、家族製會は二十三日から毎夜六時頃から
二ヶ所、總務部の製會を開く。そして茶會も夜後展
く昔者城、懐古してゐる。

(七) 銀行。取付

従來、組合員は二十野田醤油の委託が経費す。新講銀行の
預金も、者が多かつたが、二十七日の委員會議の結果
二十八月午後一時を期し、一筆に持戻して郵便局に預金し
て休養した。

(八) 演説會

二十六日野田劇場に於て、國際労働會演説會と稱し會
社、社議の大演説會を開いた。晝夜三回、直りて開き、晝
時、議長團員、後日一般町民へ入場せしめた。辯士は、同
盟會長 鈴木文治氏、関東同盟主席 藤原一氏、同盟傳
部長 藤原正親氏、會長 藤原朝最初、來野と、未曾有の
盛況を有した。二十七日日行徳に於て、同じく會社社
議の大演説會を開いた。會場は同前、娛樂館、辯士は、堀越
梅男氏、土井直作氏、田中小次郎氏等、聴衆は勿論、盛況